



みんなで作ったくまのくま (牛河内リロン)

いつも和みサロン「真こころ」へのあたたかいご支援ありがとうございます。
この度 第3回目のニュースレター発行にこぎつけました。支援をいただいている皆さまに感謝しながら近況報告をさせていただきたいと思ひます。

早いもので2014年も年の瀬を迎え「真こころ」にとって4度目のクリスマスになります。今年は南相馬市で初めての災害公営住宅が完成し、転居された方もおられます。市内10地区に350戸建設予定ですが、この数は仮設住宅の約一割の戸数です。

浜通り（福島県東部地方）の大動脈である国道6号も3年半ぶりに全面通行が可能となりました。来春には常磐自動車道が全線開通する見通しです。交通網が整備され更なる復興へ加速していく事を期待します。

まだまだ寒い季節が続きますが、私共サロン「真こころ」ではぬくもりが感じられるあたたかい空間を提供して参りたいと思ひます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



真こころ代表 内田 雅人

寺内第一仮設集会所から始まった『真こころ』のサロン活動は、3年4か月が過ぎました。
同じ被災者の立場で行うサロン活動は、住民の方にとって、心の許せる相手であって欲しいという想いが伝わっていればと思ひます。

津波、原発事故で心が傷つき、前を向くことが出来ない方が大勢いました。

支え合う家族を亡くした方も、家族がバラバラに生活しなければならない状況も長く続きました。それでも時間が経ち、歩み出さなければならない時期に来たのだと思ひます。

今後の『真こころ』の活動は、歩むために背中を押してあげる事、不安を聞き行政に繋げる事など、仮設住宅から出た次の不安を減らす事だと思ひます。

多くの方の支えのお蔭で『真こころ』は活動を続けています。
もう少し時間が掛かりそうですが、応援よろしくお願ひします。



寺内第一仮設住宅集会所サロン
真こころ 松野 美紀子



お花をありがとうございました！

笑顔と笑い声の「真こころ」角川原集会所

東日本大震災から、3年9か
月になります。

震災時、家族と家を失い何も考えられない無の状態に居た時、東京電力の事故で山形へ避難しました。

家族の仕事が再開した為、3月末仙台市内の娘のアパートに身を寄せ6月11日鹿島区寺内第一仮設住宅で、夫・息子・義母との4人での生活が始まりました。狭い仮設住宅生活でストレスがたまり、突然涙も無く涙がこぼれる日が続いていた時、寺内第一仮設住宅集会所で開かれていた「真こころ」を利用するようになりました。

同じ境遇の方達と話をすることで少しずつ笑えるようになった時、角川原にも「真こころ」を開くので、どうですか？と声を掛けて頂き私で良ければと引き受けました。

角川原仮設住宅は、高齢者を抱える世帯がほとんどで、マッサージチェアが大人気で、スタート当時から沢山の方が利用してくれました。

利用する人が居なかったらどうしようと心配していましたが、一機に不安が消えました。

マッサージチェアが1台しか無くサロンに来て利用できない

人が出でたので1台増やして対応しました。

お茶やコーヒーを飲みマッサージチェアで疲れを癒し、日々の何気ない会話で笑顔と笑い声が絶えない場所となっています。

利用者の方から、「サロンが休みの時はどこにも行く所がないのでガッカリするんだあ〜！」と言われます。こんな時、サロン運営に携わり本当に良かったと思います。

休日には、若い世代の方がコーヒーを飲みながら、これからの事について情報交換を行い、また、パッチワークや編み物で楽しい時間を過ごしています。

集団移転事業が進み家を建てられ自立する人が少しずつ増え仮設住宅を出て行かれます。

新年を新しい自宅で迎える為、12月中に引っ越しをされる方がいますが、嬉しさと皆と別れなければならない寂しさがあり複雑な思いがあると言います。

『引っ越してから、サロンに来ていた時間をどう過ごしたらいいか考えるんだ。毎日サロンに来て皆と話して過ごしたから、病気にもならず元気である事が出来た。このサロンが有って本当に良かった。

ありがとう。』と言ってくださいました。

鹿島区沿岸部で家を流失した多くの方は、同じ場所へ集団移転するので『先に行って待ってるから、早く来てね。』と言って引っ越しをされます。

20キロ圏内の小高区の方は、家があるのに帰れないもどかしさがあり、『日中小高区の自宅に戻り、家や庭の手入れに行くと、気持ちがせいせいする。』と言います。避難解除に向け、自宅での普通の生活を取り戻す為の準備を進め、前向きな気持ちが見られる様になりました。

サロンで得た地域の輪を、これからの生活に活かせるお手伝いをしたいと思います。

角川原仮設住宅集会所
和みサロン「真こころ」佐藤智子



あの日から3年

雪虫が飛んでいる。

雪 角川原仮設住宅で迎える四回目の冬が間もなく来る。

平成23年3月11日の東日本大震災の後の津波警報から逃げ、翌日の東京電力原発事故から避難して、栃木県那須町で過ごした3か月。

避難中の身でありながら、何も考える事の無かった3か月。

人生の中で、働くこともなく春のことぶれを、からだ全体で感じ、心もからだもただゆるゆるとすごした3か月。

5月下旬に市役所からの電話で、角川原仮設住宅の当選を識り、当時母が入所していたグループホーム「田園」の近くということもあり、妻、妹と相談し即決して6月10日に引っ越して来ました。

小高区は、川原田、大井、塚原

の人達の、原町区及び鹿島区の沿岸部の人達との仮設住宅暮らしの始まりは、「新築の県営住宅に入れる。」と良い方に考えて穏やかにスタートしました。

妻は、6月14日から母と少しでも一緒に居たいと「田園」へボランティアに行き私も地元のK夫妻の力強い後押しもあって、7月7日より移動販売車による家業である魚屋の営業を再開しました。

家事全般を妹に任せ3人での4畳半余2間の生活。3人がそれぞれに集会所の真こころに行きコーヒーやお茶を飲みながら、仮設への入居がなかったら一生に一度も会うことも膝をつき合わせる事も無かった人達と話し、笑い心の交流をして3年5か月になります。

私達は、小高の町なかや、西部地区という事もあって津波も見えないし被害にもあっていない。

でも、町なかに住んでいた以外の

方は、津波を見、命をかけて避難し直接被害にあいご家族やご親類を亡くされた方など様々です。

その年の親睦クリスマス会の後の雑談中に、突然涙を流された方の辛さは私には想像も出来ない程の悲しみ、言葉を掛ける事も出来ない程の切なさ。

でもあれから3年真こころでの、お茶事の楽しさは和やかな時の流れを感じます。

震災以前は、未知の方々だった全国からの支援に感謝しながら、小高へ帰れる日迄住民一同「真こころ」をこれからも利用させて頂けたらと思います。

角川原仮設住宅
谷地 茂一



写真:みんなで楽しむパッチワーク教室(上)(寺内第一真こころサロン)、パッチワークの完成品(左)、気持ち良い足湯(右)(角川原真こころサロン)

ご支援いただいた方々

2014年5月～2014年10月(順不同、敬称略)

(個人) 市川益子、栗林由美子、吉村美美、小倉眞智子、石川眞紀代、庄司淳子、高井スマ子、木村得夫、北濱純子、池上あけみ、岸秀雄、葉山松子、Lyn、Hanah Spring、丸山眞智子、宮坂佳子、田端孝之、深瀬剛男、山川晃子、松岡彰、重田秀夫、山下智樹、半場、宮崎直子、楢崎知行、外山経子、大塚恭子、長瀬三千子、中村信義、津村はるみ、遠藤湖舟、狩浦正義

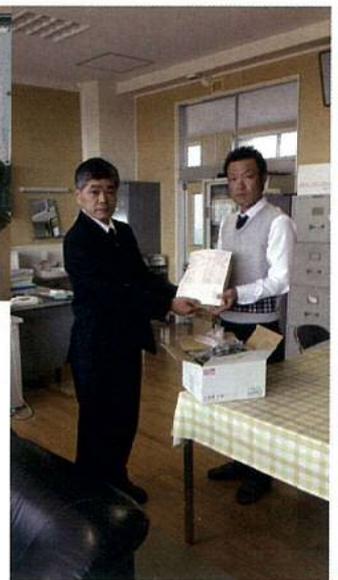
(団体等) 高崎友の会、アズマ工業、カネケンフルーツ(中川)、えんどうまめ(石川悦子)、東京ビューティーチーム、愛児幼稚園、八事聖霊幼稚園、レジーナ幼稚園、宇都宮海星女子学院、広島学院高等学校、聖カピタニオ女子高等学校、宮崎大学、聖心女子大学、藤女子大学、カトリック社会活動神戸センター、社会活動委員会、CIVIC カリタス原町ベース、熊本ジェッツ「ミス」メンズクラブ、鳥取カトリック教会、カトリック金沢教会、カトリック西千葉教会、カトリック田園調布教会、カトリック浜松教会、カトリック鷺ノ宮教会、カトリック逗子教会、カトリック藤沢教会、カトリック雪ノ下教会、カトリック清水教会、カトリック原町教会コンコルディア、カトリック磐田教会、聖ヨゼフ教会、カトリック平針教会、イエスのカリタス修道女会、長崎純心聖母会、聖ヨゼフ会岡田修道院、シャルトル聖パウロ修道女会、聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会、聖霊奉侍布教修道女会、聖母訪問会、聖心会、幼きイエス会(ニコラ・パレ)、マリアの宣教者フランシスコ会、援助マリア修道会、お告げのマリア修道女会

牛河内第一仮設の真こころサロンはオープンから3年3か月が経ちました。手芸を楽しみにしている方が多く、編み物やパッチワークなどで日々を過ごしています。一人狭い仮設で手芸をするより『みんなで集会所で!』と人が集まります。ボランティアの方とも一緒に縫い物をしたりして、記念にお持ち帰り頂く事もあります。

縁起物のフクロウを作ったり、吊るし雛を作ったりと、新居に飾る物を楽しみに作る姿もあり、住民の皆さんの会話に住宅再建の話題も増えて来ました。

牛河内第一仮設は、比較的若い方が多く住んでいます。再建の話も進み来年には閉鎖になるかもしれません。それまでは、住民の皆さんが和める場所を続けていけたらと思います。

牛河内第一応急仮設住宅集会所
和みサロン「真こころ」 佐藤 久絵



定期的に真こころサロンへエステボランティアとして訪れてくださる東京ビューティーチームさんは、ベルマークや使用済みインクカートリッジを集め、真こころに託して下さいます。

託されたベルマークやインクカートリッジは真こころの内田代表がベルマーク運動を実施している地元の小学校へ寄贈しています。写真は東京ビューティーチームの皆さん、そして南相馬市立鹿島小学校 PTA 会長並びに学校長へお渡ししているところです。

2014年度会計報告 (2014年1月1日～10月31日)

(単位:円)

収入の部	金額	備考
受取寄付金	2,073,576	
受取助成金	0	
その他収益	20,512	
前期繰越	7,680,385	
収入計	9,774,473	

支出の部	金額	備考
寺内サロン	1,926,856	
牛河内サロン	1,573,190	
角川原サロン	1,552,069	
運営費	154,672	
支出計	5,206,787	
収支差額	4,567,686	次月繰越

あたたかいご支援ありがとうございます。

真こころ なごみ通信 Vol. 3

2014年12月20日発行

和みサロン真こころ

発行責任者：内田雅人

〒972-2333

福島県南相馬市鹿島区寺内字前田 96

TEL: 070-6951-2200

E-Mail: matuno100100@yahoo.co.jp

WEB: <http://salonmakokoro.wix.com>

真こころをご支援ください

郵便振替口座：02290-0-136053

加入者名：真こころ